

『平和旬間・ラウダート・シを通して、

改めて気付いた私の鈍感さ』

家 一郎

テレビのウクライナ戦争ニュースをビール飲みながら見ている、私の鈍感さ。

北朝鮮ミサイル発射を「またか」と呟くだけの、私の鈍感さ。

原発は危険と言いながら、帰宅後直ぐにクーラー温度を27度から25度にする、私の鈍感さ。

水の恵みを感謝すると言いながら、毎日水を出しっぱなしで歯を磨く、私の鈍感さ。

自然を守ると言いながらティッシュを必ず2枚抜き取って使用する、私の鈍感さ。

プラスチックごみを減らそうとしながら、ビニール袋を各サイズ事前購入してしまう、私の鈍感さ。

日々の私の生活を見渡せば、鈍感さ・鈍感さの数々。その反面、買物お得情報・話題グルメ・人のうわさ話に反応してしまう、私の俊敏さ。



神様が心を痛めておられる各地の紛争問題・異常気象・環境破壊問題・貧困等々、愛する子供・孫・ひ孫が、間違いなくこれからも暮らす地球対応への、私の鈍感さ。

平和旬間・回勅ラウダート・シを
今一度、思い返します。

『平和な世界』ってどこにあるのでしょうか？

塩月 達也

未だにこの世界で絶えまなく戦争は起こり、他者の存在を否定し続ける人類。世界の子供の6人に1人が極貧状態で食べるものすらない。

先進国と言われる日本では精神疾患の人の数が約400万人。30人に1人が生きづらさを抱えて生活している現況。

それでも平和な世界は確かに存在すると思うのです。未来に。

神は人間が平和を実現できることを知っているからこそ辛抱強く人間に求めているのだと。その平和を実現するために絶対に必要なのが愛だと私は信じます。

一人一人がたわいもない小さな愛を積み重ねていくしかないと思うのです。

小さな愛ですら難しいのなら、小さな恋の積み重ねをするしかないのかなど。

小さな恋はいつしか小さな愛となり、その積み重なりは、やがて大きな愛の流れとなり渴いた人の心を潤すはずなのです。